

米国 11年12月 I S M製造業景気指数

発表日：2012年1月4日（水）

～製造業部門は年末にかけて再加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数 は53.9と前月比1.2% ポイント上昇

12月のI S M製造業景気指数は、53.9と前月比1.2%ポイント上昇し11年4月以来の高水準となった(市場予想53.5)。適切な在庫管理や底堅い米国内需要を背景に改善し、拡大縮小の分岐点である50を29ヵ月連続で上回った。I S M製造業景気指数は年末にかけて新規受注、生産が水準を切り上げたことで上昇し、製造業部門の再加速を示している。さらに、新規受注・在庫比率が4ヵ月連続で上昇しており、今後も同景気指数が上昇することを示唆している。

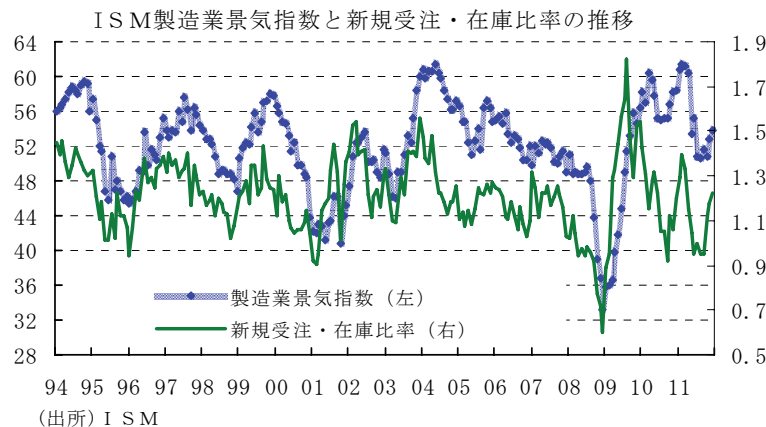
総合指数への構成項目別の寄与度をみると、在庫（前月比▲0.2%ポイント）が押し下げ寄与となったものの、雇用（前月比+0.7%ポイント）、生産（前月比+0.7%ポイント）、新規受注（同+0.2ポイント）が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+1.2%ポイント上昇した（入荷遅延：同0.0%ポイント）。新規受注では、内外需ともに増加するなかで、特に内需が堅調さを維持している。

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
11/03	61.2	63.3	69.0	63.0	47.4	63.1	52.5	85.0	56.0	56.5
11/04	60.4	61.7	63.8	62.7	53.6	60.2	61.0	85.5	62.0	55.5
11/05	53.5	51.0	54.0	58.2	48.7	55.7	50.5	76.5	55.0	54.5
11/06	55.3	51.6	54.5	59.9	54.1	56.3	49.0	68.0	53.5	51.0
11/07	50.9	49.2	52.3	53.5	49.3	50.4	45.0	59.0	54.0	53.5
11/08	50.6	49.6	48.6	51.8	52.3	50.6	46.0	55.5	50.5	55.5
11/09	51.6	49.6	51.2	53.8	52.0	51.4	41.5	56.0	53.5	54.5
11/10	50.8	52.4	50.1	53.5	46.7	51.3	47.5	41.0	50.0	49.5
11/11	52.7	56.7	56.6	51.8	48.3	49.9	45.0	45.0	52.0	49.0
11/12	53.9	57.6	59.9	55.1	47.1	49.9	48.0	47.5	53.0	54.0

I S M製造業景気指数は 緩やかに改善を続ける可 能性

今後に関しては、企業が過剰な在庫を抱えていないことや米国内需要が拡大を続けていることなどによって、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が4ヵ月連続で上昇しており、I S M製造業景気指数は上昇を続けると予想される。ただし、欧州債務問題などによって世界経済が大幅に減速すれば、改善に歯止めがかかるだろう。



輸出の緩やかな拡大を示唆

輸出受注D Iは、12月に53.0と拡大縮小の分岐点である50を上回っているうえ、前月比1.0%ポイント上昇した。世界的な景気減速にもかかわらず、輸出が緩やかに拡大を続けていることが示された。ただし、輸出D Iの水準は世界的な製造業活動鈍化の影響を受け切り下がっており、輸出が前年比で鈍化傾向を辿ることが示唆されている。

今後、新興国向け輸出が維持される一方で、内需の弱い先進国向け輸出が大幅に伸び悩むと見られ、米国輸出の拡大ペースは緩やかな拡大にとどまると予想される。

各国の米国向け輸出は再び増加ペースを速める可能性

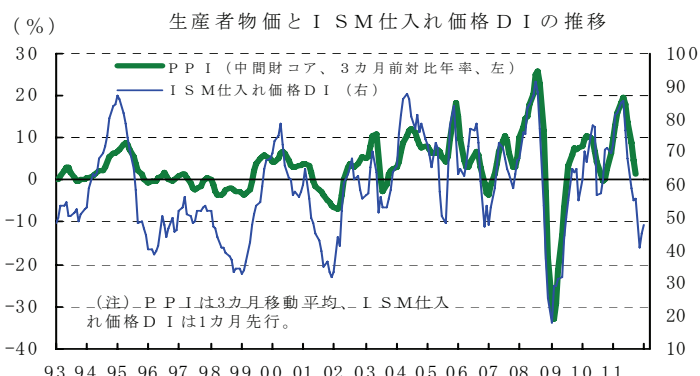
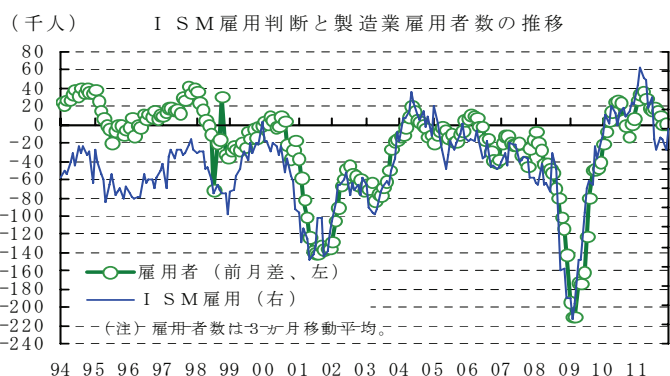
輸入D Iは、12月に54.0と前月比5.0%ポイントの大幅上昇となったうえ、50を3ヶ月ぶりに上回っており輸入の増加を示唆している。加えて、新規受注D Iが57.6と50を上回っていることから、先進各国やBRICSなど新興国の米国向け輸出は再加速すると見込まれる。

雇用D Iは55.1と12月の製造業雇用の増加を示唆

雇用D Iは、55.1と50を上回り前月比3.3%ポイント上昇したことから、12月の製造業雇用者数は小幅増加すると見込まれる。業種別では、その他製造業、電気機器関連、家具・関連製品、プラスチック・ゴム、非鉄、一次金属で減少した一方、印刷・同関連サポート、石油・石炭、繊維、アパレル、一般機械、食品・飲料・タバコ、加工金属、輸送機器、紙パ、コンピューター関連で増加した。もっとも、価格競争の激化によるコスト削減圧力の強まりを背景に、製造業部門での雇用の急速な回復は期待できない。

仕入価格D Iが47.5と川中でのインフレ圧力は弱まったまま

仕入価格D Iは、前月比2.5%ポイント上昇したものの、47.5と低い水準にとどまっている。世界的な景気減速、エネルギー・商品価格の下落によって、川中でのインフレ圧力は弱まったままである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。